

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

						福山市立 赤坂小 学校									
年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価 (10月1日)			最終評価 (2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
4	課題発見・解決力の育成とコミュニケーション力向上	★	継続	児童が主体的に人・物・時間を「つなぐ」授業づくり	①子どもが自分で問いをもつような導入を工夫し、探究的な単元づくりを行う。 ②基礎・基本の定着状況を確認し活用する場面を設定し実践的定着を図る。	①探求的な単元の中で自分で選択・決定を行いながら、学習を進めることができた児童80%以上(児童アンケート) ②学力・学習状況調査で正答率40%未満の児童前年度以下	①自分で選択・決定を行いながら、学習を進めることができた児童の割合は92.3%であった。 ②全部学力・学習状況調査で正答率40%未満の児童の割合は前年度と比較すると国語-6%算数+6%であった。学力・学習状況調査で、正答率40%未満の児童の割合は国語-3.8%算数+1.0%であった。算数教科においては、求積公式の意味等について理解したり立体的発取図と展開図の対応について考えたりすることに課題が認められる。また、結果分析を行ったところ、どちらの調査・教科においても、情報を整理し考えたりすることに課題があることがわかった。	4	4	①単元の中で児童が自分で選択・決定ができる場に加え、自己評価できる場を設定していく。そうすることで児童が主体的に学びを進めていることを実感できるようにする。 ②必要な情報のみを与えるのではなく、児童が必要な情報を取捨選択して問題を解決する場面を設定する。	①授業の中で、学習の進め方・考え方・まとめ方など、児童にまかせる場面を意図して設定することで、児童アンケート「自分で選択・決定を行いながら、学習を進めることができた」の肯定的評価は、94.5%であった。 ②教材研究では、「認知のしくみ」から学習方法を現出し、各単元のつながりを意識しながら単元計画を作成した。また、算数教科の問題提示をする場面では問題解決に必要な情報を児童が思考するような活動を意図的に設定した。このような取組を通して、学力テストで課題のあった算数教科の問題を再テストした結果、2(3)の正答率は11.9%~52.3%(4)の正答率は33.3%~57.1%になった。	4	4	4	①見通しを踏まえて自己選択・自己決定する場面を設定することで、学習を進められるようにする。 ②授業の中で問題文が示す数値や指し示す言葉が何を表しているのか、児童同士の対話場面を設定して情報を正しく読み取れるようにする。
5	豊かな心の育成		継続	児童の自己有用感を高め、他者とかかわり合う児童の育成	①子ども主体の体験活動や学校行事、学習内容の交流等を積極的に取り入れ、多様なかかわりを大切にする。	①体験活動や学校行事、学習内容の交流について、アンケート・振り返りカードに自分の成長を書いたり、相手の良さを伝えたりすることができた児童80%以上(児童アンケート)	校内発表会後、学年の良いところやカッコいいところをカードに書いて伝える活動を行った。評価指標に基づいたアンケートでは、相手の良さを伝えることができた児童は91.0%だった。一方で、自分の良さや成長に気付いた児童は74.0%であった。	4	4	①学習発表会などの行事後に書いた振り返りカードを活用して、自らを振り返ったり相手のよさを伝えたりする機会を設ける。 ②児童会役員とともに自分の良さを認めることができる取組を考え、実行する。	校内発表会後、他学年の良いところなどをカードに書いて伝える活動を行った。また、縦割り班内で互いに手紙を書き、直接話す活動を行った。これらの取組を通して児童アンケート「相手の良さを伝えたり、自分の良さに気付くことができた」の肯定的評価は91.0%だった。	4	4	4	①行事の後や縦割り班の活動(直接話す)の中で相手の良いところを書いて伝える機会を設ける。 ②マイナスな表現をプラスな表現に変換する言葉一覧を作成し、掲示することでポジティブに考えるきっかけとする。
5	健やかな体の育成		継続	自己課題を設定し、健やかな体を自己管理する児童の育成	①水泳や持久走、縄跳び等で、自己課題に合った取組方法を児童が選択・決定し、主体的に課題解決を行うようにする。	①体育の授業で、これまでの自分の記録をもとに目標を設定し、活動することができた児童92%以上 ②体育の授業で、活動内容や練習方法を、自ら選択、決定することができた児童92%以上	①体育の授業で、自分自身を振り返り目標を設定して活動することができた児童は、91.9%だった。水泳の授業では、目標決定や振り返りを行うためワークシートを活用した。 ②体育の授業で、活動内容や練習方法を自ら選択、決定することができた児童は89.0%だった。児童が自ら選択決定できるような授業の工夫が必要である。	4	3	①各単元においてワークシートを活用し、自分自身で具体的なめあての設定を行うことで、より主体的に課題解決を行うことができるようになる。 ②前時までの振り返りや、タブレットでの動画撮影をもとに、自分のめあてに対してどのような練習をするよいか、考えさせるようにする。	①体育の授業では、目標決定・振り返り・技能向上のためにワークシートを活用することで、児童アンケート「自分自身の取組を振り返り目標を設定して活動することができた」の肯定的評価は95.0%だった。 ②体育の授業で、レベルに合わせた練習コーナーの設置やルール変更を行うことを通じて児童アンケート「活動内容や練習方法を自ら選択、決定することができた」の肯定的評価は91.8%だった。	4	4	4	①ワークシートで目標設定するとき数値を入れて具体的な目標を児童がたてるようにする。 ②前時までの振り返りや、タブレットでの動画撮影をもとに、自分のめあてに対してどのような練習をするよいか、考えさせるようにする。
4	信頼される学校づくりの推進	★	継続	◎地域、保護者、学校がつながる教育活動の創造 ◎働き方改革を推進し、元気・笑顔が続く学校づくり	①情報発信や対話を増やす工夫をし、取組内容や子どもたちの姿の共有を図る。 ②授業づくりや児童の学び姿などについて気兼ねなく対話することができる職場環境をつくる。	①「学校に対する安心感」肯定的評価90%以上(保護者アンケート) ②「仕事にやりがいを感じている」肯定的評価前年度以上(職員意識調査) ③時間外在校時間月平均40時間以内の職員前年度以上	①保護者アンケート「学校に対する安心感」の項目の肯定的評価は98.5%であった。子どもたちが安心して登校できる環境や、地域の方の協力によって、子どもたちは概ね安心して登校できている。 ②職員意識調査による「仕事にやりがいを感じている」の項目の肯定的評価は79.2%であった。 ③時間外在校時間月平均40時間以内の職員は94.7%であった。定時退校日の周知による時間意識の醸成や、校務補助の活用等による負担の軽減により、時間外在校時間は削減傾向にある。	3	3	①・②子どもたちが「楽しい」「面白い」と実感する授業づくりを進めることで、安心して「学校に行きたい」と子どもたちが思えるようになる。また、職員がやりがいを感じることができるようになる。また、取組を通信等で積極的に情報発信し、本校教育活動への理解を深めていただく。 ③職員が各々の立場で業務改善を図ることができるよう、職務内容の見直しと精選を継続する。	①保護者アンケート「学校に対する安心感」の肯定的評価は97.1%であった。子どもたちが安心して登校できる環境や、地域の方の協力によって、安心して登校できる状態が一定程度保たれている。 ②職員意識調査による「仕事にやりがいを感じている」の肯定的評価は88.2%であった。 ③時間外在校時間月平均40時間以内の職員は89.5%であった。また、各月の時間外勤務の平均は減少傾向にある。(4月 35.56時間~12月 28.31時間)	3	3	4	①・②子どもたちが「楽しい」「面白い」と実感する授業づくりに継続して取り組むことで、安心して「学校に行きたい」と子どもたちが思えるようになる。また、教職員がよりやりがいを感じることもできるよう、教材研究や授業づくりの充実を図る。 ③職員が各々の立場で業務改善を図ることができるよう、職務内容の見直しと精選を継続する。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	評価基準
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。